

主な内容

巻頭言——矢巾新病院・内丸メディカルセンター開院を迎えて 附属病院長 小笠原 邦昭
附属内丸メディカルセンター長就任挨拶 附属内丸メディカルセンター長 下沖 収

特集——附属病院移転に伴う入院患者搬送の実施について

トピックス——矢巾新病院及び内丸メディカルセンターで外来診療を開始しました
小川理事長が即位礼正殿の儀及び饗宴の儀に参列しました

フリーページ——すこやかスポット医学講座No.88
「気管支喘息の最近の治療」

表紙写真：入院患者搬送当日の矢巾新病院（関連記事p.4-7）



矢巾新病院・内丸メディカルセンター開院を迎えて

附属病院長

小笠原 邦昭

(脳神経外科学講座 教授)



全職員のみならず県内外の各医療機関、岩手県警、消防、自衛隊、県民の皆様のご協力のもとに附属病院の移転が患者さんおよび県民の皆様迷惑をかけることなくできたことにお礼を申し上げます。

病院職員は、その感慨に浸ることもなく、矢巾新病院に移った患者さんあるいは9月24日から来院された患者さんへの対応に追われています。新居に引っ越した時によくあることですが、どこになにかがあるのか戸惑うことも多く、院内で迷子になっている職員の姿を頻繁に見かけます。また、院内施設の使用の仕方も浸透しておらず、試行錯誤の毎日ではないかと思います。転院前には入念に移転後の運用を決めたはずですが、いざ新体制で運用を始めてみると多くのことが詰められていないことが判明しました。移転の週は毎日夕方に、矢巾と内丸を繋いで臨時の医療安全対策・感染対策・病院運営の合同委員会を開催し、その日の問題点を洗いだし、対策を作成し、すぐに職員にメールで発信することをさせていただきました。多くのメールが届き、戸惑った職員もおられたと思いますが、医療事故あるいは職員の事故がおこれば元も子もありませんので、ここしばらくはこの状態が続くことを御理解ください。

新体制になり、多くのことが制限されてい

ると思います。特に、矢巾と内丸の2つの医療施設を運用することは思った以上に大変であることを実感しています。通常は新しい建物に移ると便利になることが多いと思います。しかし、現時点では多くの職員はそれを享受できておりません。現在の体制・運用に何が問題があるのかを、職員それぞれに考えていただき、どうすればいいのかのアイデアを出していただきたいと存じます。私としても、与えられた条件・環境のもとで、最善の方法を見つける所存です。自分の理想的な環境で仕事をできる事なんて、世の中にはありません。その中で、どうすれば better かを考えることが私の仕事と思っております。

各職員におかれましては問題があるときは、現場で「しょうがない」とあきらめずに、私までご連絡下さい。一緒に問題を解決させていただきます。

附属内丸メディカルセンター長就任挨拶

附属内丸メディカルセンター長

下沖 収

(救急・災害・総合医学講座総合診療医学分野 教授)



この度、令和元年9月21日に開設しました岩手医科大学附属内丸メディカルセンターのセンター長を拝命致しました。内丸メディカルセンターは、明治30年(1897)4月に私立岩手病院として開院して以来120有余年の歴史ある内丸の地で、岩手県の医療を中心的に支えてきた前附属病院施設を活用しながら、新たな医療施設として誕生したものです。起ち上げから軌道に乗るまで、さらには発展への道のりを考えますと、その重責に身の引き締まる思いでございます。

当センターは31標榜科による日帰りまたは短期入院での迅速な検査・診断を行う高規格の外来と短期滞在手術を中心に、患者さんのアクセス、利便性を重視した医療を行う施設です。救急診療は、平日の17時～21時と限定的ではありますが、「応急診療外来」として主に1次救急の患者さんを中心に対応いたします。加えて、総合的に診るプライマリ・ケアの充実を図り、地域の医療への貢献とともに新たな地域医療教育・研究の拠点となる施設を目指すことが、本学の淵源の地である内丸に本施設を開設した意義の一つと認識しております。

我が国は世界に類をみない速さで超高齢社会に突入しました。それに伴い医療に対するニーズの変化、社会保障費の増大、医療資源の偏在などの大きな課題に直面しております。医療提供体制の変革が求められ、キュアとケ

ア、細分化と総合化、機能特化と地域連携、高度先進医療とプライマリ・ケアは、何れも重要な二本の柱として、医療機能の役割分担と同時に、多職種・多方面にわたる連携強化が求められております。矢巾新病院では「特定機能病院」として高度専門医療の充実を目指し、一方の内丸メディカルセンターでは「矢巾新病院の外来」としての機能に加え、「地域医療の拠点施設」としての役割が求められるものと考えております。矢巾新病院と内丸メディカルセンターが密接な連携のもと、このような時代の要請にお応えする新しい医療提供・教育・研究の形を目指す、大学病院としては未だ例のない体制が準備されたものと考えております。

内丸メディカルセンターは、「地域の皆様に、良質な医療を、まごころをこめて提供します」の理念の元、矢巾新病院と同様に安心安全な「誠の医療」の実践を目指して参ります。当センターは紛れもなく岩手医科大学附属の医療施設であり、当センターの発展は、本学教職員各位のご尽力の上に築き上げられていくものと考えております。当センターが各方面のご期待にお応えできる施設になりますよう、私自身も微力ながら全力で職責を果たす所存でございます。何とぞ、ご協力とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

附属病院移転に伴う入院患者搬送の実施について

9月21日に附属病院移転に伴う入院患者さんの一斉搬送が行われました。当日は盛岡市内丸の前附属病院から矢巾新病院までの約10kmの搬送を自衛隊、警察、消防、医療機関等にご協力いただき、無事に計画を遂行することができました。本稿では入院患者搬送当日の様子について紹介します。

■ 実施概要

附属病院移転に伴う入院患者搬送は、搬送スタッフ1,200名、搬送車両53台により行われました。当日は114名の入院患者さんを重症度別に分類し、安全を第一に実施されました。搬送は8時開始、15時58分に最後の入院患者さんが矢巾新病院の病棟に到着し、入院患者一斉搬送は無事終了となりました。

■ 実施日時 令和元年9月21日(土) 8時搬送開始、15時58分搬送終了

■ 搬送ルート ①国道4号(救急車、自衛隊車両)
②国道46号(介護車両、マイクロバス)

内丸から矢巾の搬送ルート



■ 搬送患者数	114名	・救急車両搬送 83名 (内、重症系患者 57名) ・自衛隊車両搬送 8名 ・介護車両搬送 9名 ・マイクロバス搬送 14名
■ 搬送スタッフ数	1,200名	・医師、歯科医師 200名 ・看護師 350名 ・その他職員 450名 ・自衛隊、消防、警察 150名 ・関係医療機関等 50名
■ 搬送車両台数	53台	・救急車両 36台 ・自衛隊車両 6台 ・介護車両 9台 ・マイクロバス 2台 ※一番多い車両で最大4往復。 ※内丸・矢巾間の搬送距離：約10km
■ 協力機関	自衛隊	陸上自衛隊岩手駐屯地第9特科連隊本部、陸上自衛隊第9師団司令部第4部
	消防	盛岡地区広域消防組合消防本部、花巻市消防本部
	警察	岩手県警察本部、岩手県盛岡東警察署、岩手県紫波警察署
	関係医療機関	青森県立中央病院、日本赤十字社 盛岡赤十字病院、医療法人日新堂 八角病院、医療法人仁医会 都南病院、医療法人友愛会 盛岡友愛病院、医療法人松誠会 滝沢中央病院、医療法人巖心会 柝内病院、医療法人巖心会 柝内第二病院、医療法人恵仁会 三愛病院、医療法人共生会 松園第二病院、医療法人愛和会 盛岡南病院、特定医療法人 盛岡つなぎ温泉病院
	民間救急車	株式会社リーベン、民間救急東京

■ 当日の様子

当日は予行演習での想定人数より少ない患者数でしたが、重症患者さんも多く、難易度は高い搬送となりました。本番に向け2回の予行演習を行い、問題点を抽出し、改善を繰り返したことで、より安全でスムーズに搬送することができました。

◆ 前附属病院からの搬出



正面エントランスの車両プール



前附属病院内の搬送



担架（自衛隊）への乗せ換え



救急車用ストレッチャーで院外へ



救急車への収容



矢巾新病院へ出発

◆ 内丸－矢巾間の搬送



国道4号



町道中央1号

◆ 矢巾新病院への搬入



矢巾新病院に到着



患者さんを慎重に搬送する自衛隊員



院内用ストレッチャーへの乗せ換え



矢巾新病院搬送本部



矢巾新病院内の搬送



病棟へ到着

■ 患者搬送を終えて

小川理事長は「この病院は世界第一号機を含めて、様々な高度治療機器、診断機器を備えている。世界に出しても恥ずかしくない病院である。岩手・北東北の患者さんは安心してこの病院に来てもらいたい」と述べました。

また、小笠原病院長は「病棟で安らかに過ごしている患者さんをみて、非常に安心した。患者さんには新しい病院に移ることへの様々な不安があったと思うが、それを全く感じなかった。それは現場のスタッフがきちんと患者さんの不安を取り除いてくれたおかげだと思う。開院に向けて、とにかく県民の方々が安心して高度な医療を受けられるように努めていきたい」と述べました。



報道機関の質問に答える
小笠原病院長（左）と小川理事長（右）

矢巾新病院の開院に伴い盛岡駅電飾看板をリニューアル、 矢幅駅には本学の案内看板が設置されました

9月21日（土）の矢巾新病院開院に伴い、盛岡駅南口階段に設置している電飾看板のリニューアルを行いました。また、矢幅駅では改札正面に本学への案内看板を新設、ホームの駅名看板には「岩手医科大学前」と表示されました。今後も附属病院新築移転等に関する広報活動に努めてまいります。

盛岡駅



盛岡駅南口電飾看板のリニューアル

矢幅駅



矢幅駅改札正面の案内看板新設



ホームの駅名看板に「岩手医科大学前」の表記追加

矢巾新病院開院に伴い公共交通機関等が増便されました

矢巾新病院の開院に伴い、東日本旅客鉄道株式会社、岩手県交通株式会社及び各自治体等で下記のとおり、電車・バス・タクシーの増便・新規運行が行われますのでお知らせします。

電車

【新設】

- 運行名称：東北本線上り臨時列車
(盛岡駅から日詰駅間、平日運行)
- 運行開始：令和元年9月24日（火）
- 運行時刻：7時4分盛岡駅発 → 7時15分矢幅駅着

【土休日運休から毎日運転に変更】

- 運行名称：東北本線上り臨時列車
(盛岡駅から日詰駅間)
- 運行開始：令和元年9月21日（土）
- 運行時刻：7時40分盛岡駅発 → 7時52分矢幅駅着

バス

岩手県交通株式会社

- 新設停留所名：「岩手医大病院」
- 運行開始：令和元年9月24日（火）
- 運行経路：【北高田線・矢巾医大線】
盛岡駅 ⇄ (省略) ⇄ 医大矢巾キャンパス ⇄ 岩手医大病院
⇄ (省略) ⇄ 矢幅駅
- 運行本数：1日計38本(平日)、1日計18本(土・日・祝日)

矢巾町

- 運行名称：市街地循環バス（試験運行）
- 運行開始：令和元年9月20日（金）
- 運行経路：矢幅駅東口 → 医大附属病院前 →
医大矢巾キャンパス前 → 矢幅駅東口
- 運行本数：1日8本（平日）



花巻市

- 運行名称：岩手医科大学附属病院利用者連絡バス
- 運行開始：令和元年9月24日（火）
- 運行経路：
【往路】花巻駅前（3番バス乗り場）→ 石鳥谷駅前（乗車のみ）
→ 岩手医大病院
【復路】岩手医大病院 → 石鳥谷駅前（降車のみ）
→ 花巻駅前（3番バス乗り場）
- 運行本数：1日2往復（平日）、1日1往復（第1・第4土曜日）

タクシー（定額サービス）

株式会社ヒノヤタクシー

- 運行開始：令和元年10月1日（火）
- 運行区間：矢巾新病院と内丸メディカルセンター間
- 利用料金：3,500円（税込）
- 利用方法：乗車の際に乗務員に「定額」と申告
なお、本サービスでの乗降は両病院のタクシー乗り場
限定です。



※各種運行時刻等の詳細は、大学ホームページ（<http://www.iwate-med.ac.jp/news/n1-information/20190911-soumu/>）又は各機関へお問い合わせください。

橘復興副大臣による岩手県こころのケアセンターの視察が行われました

9月2日（月）、本学が岩手県から受託し運営している岩手県こころのケアセンターの中央センター（本学3・4号館7階）に、橘慶一郎復興副大臣と石田優統括官ほか復興庁職員が訪れました。

始めに、橘復興副大臣は、こころのケアセンターの日頃の活動をねぎらわれ、研究室配属の医学部学生にもお声がけされました。

その後、意見交換会では、酒井センター長と大塚副センター長により、事業の説明や本県の現状等が報告されました。岩手県の大槻復興局長、野原保健福祉部長、ほか担当職員も同席しました。祖父江学長は「大震災の後のこころのケアは非常に重要であり、岩手県でのやり方を基にして、次世代に繋がるシステムの構築を目指している。国として今後も応援していただきたい」と支援を呼びかけました。



小川理事長が即位礼正殿の儀及び饗宴の儀に参列しました

小川理事長は、10月22日（火）に皇居宮殿（正殿「松の間」）で行われた天皇陛下御即位を宣明する即位礼正殿の儀、及び10月29日（火）に皇居宮殿（春秋の間）で行われた天皇陛下御即位を祝す饗宴（きょうえん）の儀に参列しました。

小川理事長は、「今回は一国民としての参列であったが、東日本大震災での本学の活動が評価され、岩手医大全職員の代表として招待いただいたものと思っている。即位礼正殿の儀及び饗宴の儀に参列できたことを大変光栄に思う」とコメントを寄せました。



即位礼正殿の儀の記念品

令和元年度岩手医科大学秋季卒業式を挙行了しました

9月10日（火）午前11時から、矢巾キャンパス大堀記念講堂において、令和元年度岩手医科大学秋季卒業式を挙行了しました。



祖父江学長による式辞



小川理事長による祝辞

薬学部の卒業生60名に対し、祖父江学長は「感動する心を忘れずに、気持ちを新たに頑張ってもらいたい」と式辞を述べ、小川理事長は「今後は国民の皆さんの期待に応えるべく、自らを大いに磨き、病める方々のために貢献してほしい」と激励の言葉がありました。式終了後、薬学部卒業生一人ひとりに三部薬学部長から卒業証書・学位記が授与されました。



三部薬学部長による卒業証書・学位記の授与

矢市新病院及び内丸メディカルセンターで外来診療を開始しました

9月24日（火）、矢市新病院及び内丸メディカルセンターにおいて、外来診療が始まりました。矢市新病院では、7時30分に正面エントランスが開き、小笠原病院長をはじめ病院スタッフが患者さんを迎え入れました。



矢市新病院の様子

病院スタッフは、新しい病院で患者さんが迷うことがないように丁寧に案内対応を行いました。小笠原病院長は開院に合わせ詰めかけた報道陣に対し、「患者さんが満足のいく医療を提供していくことが最も大切。職員一同そういうつもりで病院運営に取り組んでいく」と決意を述べました。



矢市新病院で患者さんを案内する佐藤看護部長

また、前附属病院施設を利用してリニューアルオープンした内丸メディカルセンターは、矢市新病院の分院として外来機能を担います。下沖内丸メディカルセンター長は報道機関の取材に対し、「本学創立の地である内丸で新しい地域医療の拠点を目指す」と意気込みを語りました。



内丸メディカルセンターの様子

矢市新病院の開院に伴いトクタヴェールとコスモス館がオープンしました

9月24日（火）、矢市新病院の開院に伴い、病院敷地内に商業施設として整備されたトクタヴェールと、調剤薬局などが入るコスモス館がオープンしました。



トクタヴェール

トクタヴェールにはフードコート、コンビニエンスストア、ベーカリーなどが出店しており、オープン当日から大勢の来院者や本学教職員で賑わいました。トクタヴェールの開館時間は7時30分から21時ですが、店舗ごとに営業時間が異なります。各店舗の営業時間は以下のとおりです。

テナント	平日営業時間	第1・4土曜日	病院休診日
PanoPano	10時～18時		
西洋フード	11時～17時	11時～15時	休業
タリーズ	7時30分～19時	7時30分～17時	9時～17時
キッチン+ギャラリー豆	11時～20時	11時～16時	
スヴェンソン	9時～18時		休業
ケアテック	9時～18時	9時～12時30分	休業
いんべクリーニング	10時～15時		休業
無人預かり返却ロッカー対応	7時30分～10時、15時～21時		休業
ローソン	24時間 ※但し、21時～翌7時30分は教職員のみ利用可能		
岩手銀行	9時～15時	休業	
ATM(自動預け払い機)	8時～21時		

また、コスモス館では1階の調剤薬局がオープンし、2階は本学関係企業の控室等として利用されます。1階に整備される健康増進施設は、矢巾町が運営を担い、来年1月頃開設予定です。



コスモス館

岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第30回目の御芳名紹介です。(令和元年7月1日～令和元年8月31日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●法人・団体等（5件）

<1,000,000>

医療法人 潤心会 神の前キッズデンタルパーク（岩手県紫波郡）

<300,000>

医療法人 胡桃会（青森県むつ市）

医学部第31期・歯学部第12期 合同クラス会（医31・歯12）

<120,000>

医療法人 伊東内科クリニック（岐阜県岐阜市）

<100,000>

医療法人 佐藤胃腸病院（福島県郡山市）

●個人（20件）

<2,000,000>

小川 彰（役員）

<1,000,000>

佐々木 隆博（歯1）

苫米地 怜（医22）

<50,000>

高橋 昌樹（父母）

<25,000>

藤田 聖一郎（父母）

藤田 真由美（父母）

藤田 結花（学生）

<10,000>

齊藤 靖（父母）

及川 朝也（父母）

<ご芳名のみ>

藤宮 大（父母）

岸本 年史（父母）

佐藤 洋一（教職員）

安保 弘子（教職員）

佐藤 敬信（父母）

藤原 良治（父母）

横内 大（歯25）

半田 有希（父母）

小野 忍（父母）

佐々木 正明（父母）

関本 弘幸（父母）

区 分	申込件数	寄付金額（円）
圭 陵 会	917	588,615,089
在 学 生 ご 父 母	769	397,915,000
役 員 ・ 名 誉 教 授	86	112,710,000
教 職 員	220	32,392,000
一 般	102	32,305,010
法 人 ・ 団 体	324	967,774,000
合 計	2,418	2,131,711,099

（令和元年8月31日現在）

省エネ推進委員会だより

「夏季の節電活動」の結果報告について

職員の皆様方におかれましては、日頃より省エネ活動にご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

今夏も「夏季の節電活動」を行い、期間内における電力使用量をとりまとめましたので集計結果についてお知らせ致します。

「夏季の節電活動」概要

【実践期間】

令和元年6月1日～8月31日まで（クールビズは9月30日まで）

【節電目標】

実践期間内の消費電力量（合計）の前年度比1%の削減

【実践項目】

冷房温度 28℃設定（病棟・診察室等は弱冷房の励行）、不要照明の消灯、待機電力の削減、クールビズ活動

まとめと考察

今夏は、本町キャンパス、PET・リニアック先端医療センター、医療専門学校が前年度の電力使用量1%削減の目標を達成致しました。

要因としては、薬物毒物研究室の本町キャンパスから矢巾キャンパスへの移転、医療専門学校の歯科技工学科の新規学生募集停止、外気温度が前年度と比較し低かったこと等があげられます。

全体の結果としましては、例年と比較して6月、7月の気温が低く各空調機の運転負荷が少なかったことから削減目標を達成致しました。

9月下旬の矢巾への病院移転に伴い、矢巾本院と内丸分院の2体制となったことから、今後、大学全体の電力使用量の増加が見込まれます。

今後とも不要な設備の停止や照明の消灯等、引き続き省エネ活動のご協力をお願い致します。

施設別電力使用量集計（単位：千Kwh）

施設名	期間の合計	前年度比
内 丸	5,647.9	+0.8%
矢 巾	2,717.0	+0.7%
本 町	25.8	-56.0%
P E T	114.8	-10.8%
医療専	17.4	-6.8%
施設合計	8,522.9	-1.6%

電力使用量の推移（月毎の施設合計量）





共通基盤看護学講座の野里同助教が第21回日本褥瘡学会学術集会において、2年連続で最優秀演題賞を受賞しました

この度、令和元年8月23日から24日に京都で開催された第21回日本褥瘡学会学術集会において発表した「周術期褥瘡の予防ケアに関する基礎研究」で『最優秀演題賞』を受賞しました。

この研究は、これまでの看護師経験の中で発熱や低体温予防に使用される加温装置など「圧迫部位の皮膚温上昇が褥瘡発生に関与するのではないか」という臨床の疑問からスタートした基礎研究であり、圧迫部位に貼付するドレッシング材を工夫することで褥瘡を予防できることを検証しました。今後は、これまでの研究で得られた成果を臨床に還元し、より良いケアを提供できるよう、臨床の看護師の方々と諸先生方より御指導・御協力を頂きながら研究を進めたいと思います。

最後に、今後の研究も含めてご助言頂いた医学部解剖学講座(細胞生物学分野)の齋野教授をはじめ教室内の先生方、そしてこれまで御指導、御協力して頂いた皆様方に深く感謝申し上げます。
(文責：共通基盤看護学講座 野里 同)



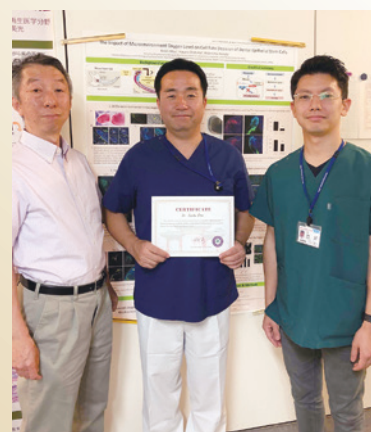
解剖学講座発生生物・再生医学分野の大津圭史准教授がThe 7th Tripartite Conference on Tooth and Bone in Development & Regenerationでポスター賞を受賞しました。

この度、The 7th Tripartite Conference on Tooth and Bone in Development & Regeneration(令和元年8月17日から18日、四川大学(中国四川省成都市)で開催)のPoster competitionにおいて、第2位を獲得しました。

受賞した発表の題名は「The impact of microenvironment oxygen level on cell fate decision of dental epithelial stem cells (微小環境酸素濃度がエナメル上皮幹細胞運命決定に与える影響)」です。

我々の臓器や組織では、組織幹細胞と呼ばれる細胞が、絶え間なく細胞を供給することで恒常性維持や再生に中心的な役割を果たします。この発表ではマウスの切歯に存在する組織幹細胞をモデルとして、組織内の酸素濃度が幹細胞の分裂や分化を制御するメカニズムを明らかにしました。ここから見出された成果は、歯のみならず様々な組織で共通であると予想されます。今後もこの研究を更に進め、医学の発展に向け研鑽していきたいと思っています。受賞にあたり、ご指導ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

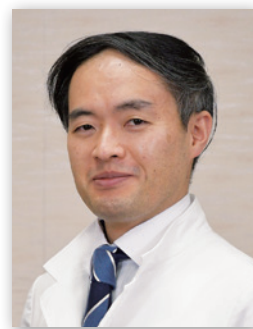
(文責：解剖学講座発生生物・再生医学分野 大津 圭史)



(左から:原田教授、大津准教授、池崎助教)

スポット医学講座

内科学講座呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野 講師 長島 広相



気管支喘息の最近の治療

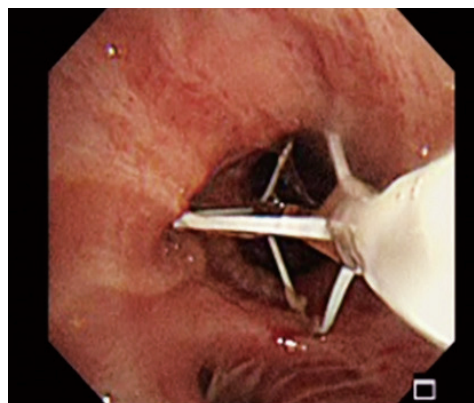
気管支喘息は血圧や血糖のような客観的に判定できる指標がないため、医師から診断を受けたことを基準にした有病率で疫学的に示されることが多く、全体把握が難しい疾患です。四日市ぜんそくなどが発生した高度成長期に比べ大気汚染が改善している現代でも、成人喘息は複数の調査で有病率は増加傾向にあります。喘息の増悪因子となるダニは高温多湿な日本では欧米と比較し数が非常に多い状況です。最近は気密性が良い家が増えたことによりダニにとっても快適な環境になっているともいわれています。また飛散する花粉も増加しており、原因として戦後に植林されたスギが成長し、花粉の生産量が多い成木が増えたことによります。ダニや花粉などのアレルゲンが多ければアレルギー疾患が多くなります。原因はさまざまですが世界的にみても成人喘息は増加しています。

日本で喘息により死亡する患者数は1950年には16,000人を上回りましたが、吸入ステロイドの普及により2016年には2,000人以下になりました。しかし一部には既存の治療では病状のコントロールが不十分で、経口ステロイドの常用が必要な患者さんや、しばしば発作を起こす患者さんもいます。このような難治性喘息の患者さんに対して、最近では

抗体製剤による治療と気管支熱形成術の治療が行われるようになりました。抗体製剤はIgE※1やIL※2-5、IL-13、IL-4に作用し炎症を抑制し喘息症状を軽減させます。値段が既存の喘息の治療薬に比べ高価な点が課題ではありますが、非常に有用な薬剤です。経口ステロイドの量を減少させることもできます。気管支熱形成術は気管支平滑筋を温熱負荷によって減少させることにより症状を軽減させます。これらの新しい治療法をどのように使い分けていくかがこれからの課題になります。

※1 IgE：免疫グロブリンの一種

※2 IL：インターロイキン



気管支熱形成術

(気管支を専用のカテーテルで65℃に熱しているところです。)

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰	佐藤 真結美
影山 雄太	菊池 初子
松政 正俊	工藤 正樹
齋野 朝幸	及川 弘美
藤本 康之	安保 淳一
白石 博久	佐々木 忠司
成田 欣弥	畠山 正充
遊田 由希子	藤村 尚子
佐藤 仁	武藤 千恵子
小坂 未来	高橋 慶
藤澤 美穂	

編集後記

矢巾新病院が開院して、早くも一か月が経ちました。矢巾勤務の皆さんは、職場が移ったことで日々の暮らしにも変化があったことでしょう。自動車通勤に切り替えた私は、すでに運動不足気味……そこで、お昼休みの散歩を思い立ちました。気の向くまま、歩みを進める方向によって様々な表情をみせる街並みと、トンボが飛び交う豊かな田んぼの風景に心が洗われる毎日です。皆さんも、矢巾散歩で秋の深まりを感じてみてはいかがでしょうか？

(編集委員 影山 雄太)

岩手医科大学報 第517号

発行年月日 令和元年10月31日

発行 学校法人岩手医科大学

編集委員長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 法人事務部 総務課

TEL. 019-651-5111 (内線5452、5453)

FAX. 019-907-2448

E-mail: kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp